

国際的競争力あるシステム構築へ向けて

(株)日立製作所 名誉顧問
日立マクセル(株) 名誉相談役
桑原 洋

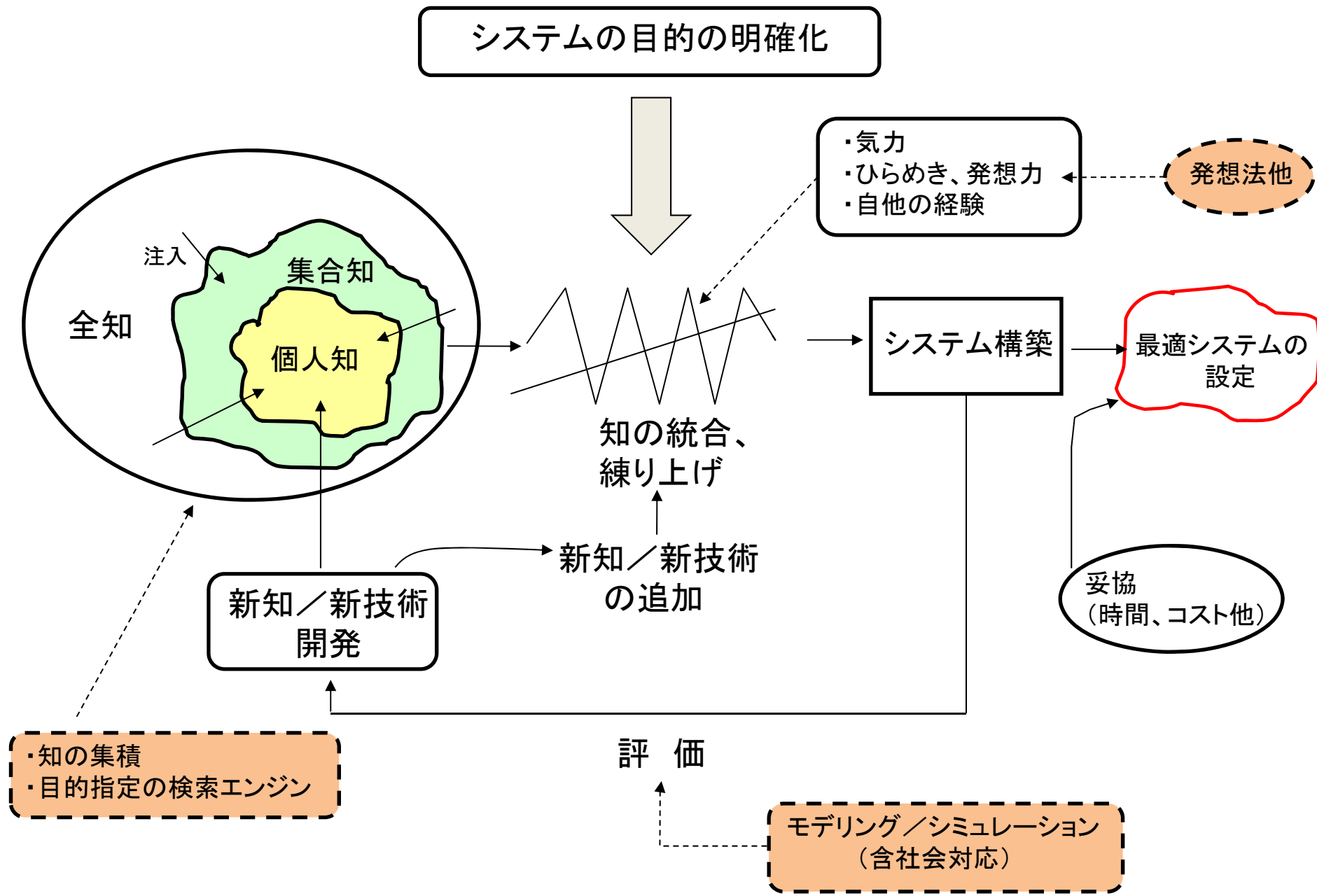
これからのシステム

- 1) これからはグローバルな事業展開が欠かせない。グローバル企業(海外で活動ー売上、利益、雇用、技術の日本からの導入)のありようを日本国としてどう考えていくのか？ GDPに代わる指標の導入、日本への利益還元の拡大、国の税収増にもつながる日本産業展開システムの創出
- 2) 今ある産業を世界に向かってどのように拡大するか？ 拡大できるか？
 - ・社会インフラ、環境、エネルギー、水などのシステム産業
…極めてローカルな日本の経験の移設
 - ・自動車、鉄鋼、化学、高機能材料、サービス、生活関連産業、農業、漁業関連産業、観光産業システムなど
- 3) 原材料調達地点での生産基地の考え方、国の支援のあり方、海外事業の資本政策、税制のあり方(例;鉄、化学)

先行するシステムを魅力ある海外輸出製品に仕上げ
るために、国際競争力を強化することが必須であ
り、このための技術課題への挑戦は日本として避け
て通れない重要テーマである。

以下システム開発の具体例を挙げる。

- 経験を生かした安全性の高い原子力発電システム
- 世界的競争力ある海水淡水化システム
- 各種の環境対応システム(排ガス浄化、排水再利用、河川/湖水浄化、悪臭浄化、家畜糞尿処理、ゴミ処理/ゴミ発電、下水処理、廃棄物処理、産業廃棄物処理、家電などの廃棄処理など)
- 安全・安心を強化する社会システム(通信、画像、IT活用、弱者対応、災害対応)
- 効率化社会対応システム(エネルギー、排熱、水、レアメタル省エネ、省資源)
- 交通システム(新幹線、地下鉄、新交通システム、次世代自動車、ITとの連携)
- 新しい運送システム(ネット対応、新宅急便)
- 技術開発は進んでおり、新たな技術開発能力は高いが、産業として成功していないものの産業化…ロボット、ナノ加工機/測定器、新しい医療機器



—図1. システム構築の実体—